



TITLE:

資本制生産の發展と商業の關係 - 商業資本の機能について -

AUTHOR(S):

堀, 新一

CITATION:

堀, 新一. 資本制生産の發展と商業の關係 - 商業資本の機能について -.
經濟論叢 1935, 41(6): 829-852

ISSUE DATE:

1935-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130661>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷一十四第

行發日一月二十年十和昭

論叢

消費利子の問題……………文學博士 高田保馬
車稅の基本的問題……………法學博士 神戸正雄

時論

産業組合製絲と養蠶農家……………經濟學博士 八木芳之助

研究

統計調査論……………經濟學博士 蜷川虎三
資本制生産の發展と商業關係……………經濟學士 堀新一
株式價格構成の原理……………經濟學士 石田興平

說苑

朝鮮に於ける金爲替本位制……………經濟學士 松岡孝兒
限界生産力說と新勞銀基金說……………經濟學士 飯田藤次
古典學派の商業概念について……………經濟學士 松井清

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題
本誌第三十一卷乃至第四十卷論題索引
本誌第四十一卷總目錄

資本制生産の發展と商業の關係

——商業資本の機能について——

堀 新一

一

商業の存在發展は商業自體の發展法則に規定されるよりも、寧ろこれを抱擁する社會經濟の發展に、より依存するものと見る事が出来る。生産力の發達幼稚にして、何等の餘剰生産物なく、從つて交換なく、商品なく、貨幣なきところには何等の商業なく、商業資本の發展もない。同様に商業の機能と雖も一の特定の社會形態經濟關係に規定されてゐるのであつて、例令我等はこれを抽象的形式的に考へる事は出来ても、かゝる歴史的經濟的差異を閑却した考察は何等の社會進歩の行路を明かにしたものと云へない。

商業竝に商業資本は資本制生産方法の發展に遙か先立つて存在する、即ち資本が生産を支配する以前に既に存在し機能し得るものであるが、一度び資本制生産が發展するや即ち資本が生産を把握するや、商業の機能は質的變化を來し、從來の獨自性は失はれて『産業の召使』となり、商業資本は『産業資本の轉化したる形態』としての機能を止めるに至る。¹⁾ここに商業機能の經濟關係——

——特に生産關係の發達に伴ふ質的變化が見られる。同じく資本制生産のもとに於てもその發達の程度に依つてその作用を異にす。自由競争が支配し生産が尙分散されて居る間は、その間に處して、極めて多面的に機能し得た商業も産業に於ける資本主義的結合の發生とともに根本的に變される。かくて産業の發展は『商業がマニユファクチュア時代に有して居た生産上の支配的地位からこれを段々に追返す、しかもこの退却は決定的であつて、金融資本の發達は、商業を絶對的にも相對的にも壓縮し、そしてかくも驕慢なりし商人を化して金融資本が獨占する産業の一代理店たらしめる』のである。かく商業の機能は經濟關係の發展に規定されるとは云へ後にも述べる如く商業の生産への作用——交互作用の存在も勿論否定するものではない。

私の本論の目的はかかる資本主義生産の發生發展に伴ふ商業機能の變化を研究するにある。考察の便宜上右の順序に従ふ。

- (一) 資本主義(資本制生産)の出發點としての商業
- (二) 自由競争の支配(産業資本の支配)のもとに於ける商業
- (三) 獨占資本主義(金融資本の支配)のもとに於ける商業

二

資本主義の出發點として商業は如何なる意義を持つか。換言すれば資本制生産の發生に對して商業は如何に機能したか。又はせしめられたか。

2) Rudolf Hilferding, Das Finanzkapital, 1923, S. 295.

3) K. Marx, Zur Kritik der Politischen Ökonomie, 1924, S. XXXIV.

一 商業資本はその存在のための條件としては商品流通と貨幣流通をしか必要とせない關係上資本制生産に遙か先立つて存在し得、又存在すべきであつて、その存在は資本制生産の發生には缺くべからざる一前提をなすと見る事が出来る。元來資本が未だ生産を把握せず流通過程に於てのみ成立せる間は、資本は生産より獨立して機能し、生産物は商業を待つて始めて商品化するものであるが、この最も純粹な形はかの未發達な生産領域相互の仲介機能を營んだ古代商業の中に既に表はれて居る。スミスはかかる商業の機能を説明して『商業都市の住民はより富める諸國の改良された製造品及高價なる奢侈品を輸入し大土地所有の虚榮心に或榮養物を提供した彼等は其の土地の農産物を以て熱心に之を購入した』と述べてゐるが、かかる商業が極めて高利潤であつた事は先づ注目すべきである。蓋し自己消費の爲の異なる使用價値の交換($W-G-W$)ではなく資本の運動($G-W-G$)である以上、一定額の貨幣財産が商人の手に蓄積されるは必然であるが、かかる初期の商業に於ては系統的包含的な商品生産もなく、價格の國際的均一化もなく、生産物の交換される量的關係は偶然な場合多く、價格は商人の支配する所であり、仲介利潤としての正當なる割前の外に商略僞瞞の支配する餘地は極めて大きく、論者に依れば當時の商業利潤は大部分商略、僞瞞の產物であるときへ云ふ⁶⁾。この仲介商業の有利性と驚異的發展はかの商業都市商業民族の繁榮も之を實證する所であるが、かかる特質の中に既に資本制生産發生のための一豫備條件たる『貨幣財産の集積⁸⁾』が行はれた事是否定出来ない。

4) A. Smith, Wealth of Nations, Cannan Vol. I, p. 378.

5) A. Smith, W. of N. Vol. I, p. 317.

6) Marx, Das Kapital III, B, I Teil, S. 282. (Herangegeben von Friedrich Engels).

7) Smith, W. of N. Nol. p. 355-395.

8) Marx, Das Kapital III, I, S. 277.

二 商業資本は前述の如く生産力が一定の發展段階にある限り、如何なる生産様式のもとでも存在し得るものであるが、その結果は、生産物を商品化し、商品流通を速進し、大量化し、從來使用價值を目的とした生産に交換價值を目的とする性質を附與する傾向ある事も見逃せない。元來資本制生産方法なるものは商業のための生産と個別的顧客を目的とせない大規模の販賣を要件とするものであるが、自己一身の欲望の充足を目的として購買するのではなく、多くの人々の購買行為を自己の購買行為に集積せしめる商人の存在はその前提をなすと云へよう。⁹⁾

三 商業資本の發展はその間接の影響として社會的分解作用を引起す。史的に見れば都市工匠農村家内工業の地位の惡化・階級對立の激化・イデオロギーの變化・ボグダノフの言を借りてこの状態を簡単に述べれば『商業資本の力は小ブルジョア經濟の内部關係を變化しその中に搾取の精神を注入した¹⁰⁾』のである。かくて商業資本は手工業者土地所有者の支配を獲得しつつ之を解體せしめる。スミスはこの過程を説明して云ふ。外國貿易は土地所有者に土地の餘剰生産物と交換し得従者と分たずして彼等自ら消費し得る或物を供給してくれた。この事は漸次『凡ての中に最も兒戲的な最も賤劣にして最も金錢に穢い虚榮の満足と彼等の一切の權力權威とを交換する¹¹⁾』に至り行商人主義の普及は不識の間に一の社會的變革を齎したと。然らば商業資本による舊生産社會の分解は必然資本制生産を齎すかと云ふと必ずしもそう斷定は出來ないのであつて、史的に見るも、古代商業に於てはその發展は奴隸制度を伴つてゐる。一部の論者は商業資本の發達は舊生産

9) Marx, Das kapital, III, I, S. 277.

10) ボグダノフ、經濟科學概論、改造社版 p. 199

11) Smith, W. of N. I, p. 386.

宇野教授、資本主義の成立と農村分解の過程(中央公論576號)

方法を分解せしめはするがこれに代つて如何なる生産方法が生れるか或は如何なる程度迄之を分解せしめるかは舊生産方法自體の性質並にその強靱性内部編成の如何等に關する所であつて商業資本の關する所ではないとなしてゐるが、¹²⁾かかる見地に立つ限り商業資本の生産に對する作用の限界性がここに表はれて居ると見る事が出来る。

四 今かかる窮局の規定性の問題は姑くおき、一定の限界はあるにもせよ資本が流通過程のみに成立せる間は、その活躍は、生産より獨立し、自由獨立的なものであり、特に市場の擴大・生産の分散性はその市場智識の貧弱手元金の乏しい事と相俟つて、¹³⁾全く『資本制社會に入らんとする當時にありては産業は商業により支配せられた』¹⁴⁾のである、この場合商人はその經濟的勢力を利用して生産的活動に干涉し、生産の管理者及び最高の組織者として行動するが、¹⁵⁾やがて或者は生産者に材料を與へ、¹⁶⁾進んでは生産用具一切を準備しかくて商業資本の産業資本への轉換が境界づけられるのである。ここに於ては商業は或意味では最早産業の一特殊機能を營むに過ぎざるに至りかくて商業資本は自分を發展せしめる事により自分自身の獨自性をも止揚するのであり、まさに『商業資本の獨立の發展は社會の一般的なる經濟的發展と逆比例する』のである。^註

註 マルクスは商業の産業支配の過程を説明して云ふ『産業資本は絶えず世界市場を念頭に置いて彼自身の費用價格をば單に自國內の市場價格のみとはなく尙又全世界の市場價格とも比較する又絶えずさうしなければならぬ。この比較は資本制以前の時代に於ては殆んど全く商人達に專屬してゐたそれは斯くして商業資本の手に産業資本に對する支配を確保せしめたのである。』¹⁷⁾

12) Marx, Das kapital, S. 283. p.

13) ボグダノフ、前掲、p. 188 當時の市場擴大は著しく、16世紀にはイギリスの工匠が作つてた時計がトルコで賣られると云ふ。かく廣い不安定な遠近な市場に向つて商品を生産する小商品生産者は市場が狭く一定してゐた時の様に自らの貨物を市場に持出すことは全く不可能な(ボグダノフ p. 189)

14) Marx, Das Kapital, S. 281

五 商業並に商業資本の存在が資本制生産の一前提として考へられる事は以上の如くであるが

勿論甲が乙を前提とする事は必ずしもそれを結果すると云ふ意味にはならない。資本制生産發生への過度を條件づけるためには尙商業資本の存在だけでは不十分である。上述の如く生産方法が一定の發展状態にある事が基礎條件たると共に直接には自由労働者の存在その他も必要であるが、¹⁵⁾今一應これが資本制生産の前提をなす事を認めるとして、然らば何故私はこれを資本主義の出發點と云ふか。從來資本主義の起源をどこに求めるかに就いては極めて異論のある所である。Lujo Brentano の如きは營利への努力を以て資本主義的となし、商業を以て最初の資本主義的經營となし、中世の商業をも資本主義の中に含めんとし¹⁹⁾上述の Bogdanow の如きも多くの學者と共に商業資本の産業支配の時代を商業資本主義の名を以て呼んでゐる。²⁰⁾ W. Sombart の如きはその精神尊重史觀より、資本主義を一の精神により作られたものとして、『近代資本主義の歴史を書くといふことは、資本主義的經濟組織の觀念は數世紀の間に如何に實現するか、歐洲民族の經濟生活は凡ての部門に於いて新しい精神から如何に發展し來つたかを示すといふ事である』²¹⁾と揚言してゐる。かくて氏は資本主義は『生産手段を所有し指揮權を有する經濟主體である團體』と『無所有の労働者の集團』との二つが、市場に結合され、相關聯する所の經濟體制であり營利主義と經濟的合理主義が支配する點に特徴を求めてゐるが、²²⁾かかる羅列的規定を排し、主觀的起源論を排する私は、一應商品生産の支配的となり労働力をも商品として賣買される事を以て資本主義の特

15) ボグダノフ、前掲 p. 192. 193 所謂『商業資本主義的生產組織』

16) ボグダノフ、前掲 p. 196 所謂『大規模資本主義的生產の家内制度』

17) Marx, Das Kapital, S. 288.

18) 河上博士、社會問題研究、第七十二冊、p. 14, p. 32

19) Lujo Brentano, Der wirtschaftende Mensch in der Geschichte, S. 258-259.

20) ボグダノフ、前掲、p. 184 山川均氏、資本主義以前經濟史(經濟學全集

色となし、かかる社會制度は、資本制生産の發展により始めて出現し、高度化するものと解した。然る限り商業資本はその前提であり、かくて『商品流通は資本の起點たるものであつて、商品生産と發達したる商品流通即ち商業とは資本の依つて成立する歴史的²³⁾前提を成すものである。世界商業及び世界市場は十六世紀に於いて資本の近世生活史の端を開いてゐるのである。

三

次に産業資本が支配的な生産社會・自由競争が支配的な生産段階に於ける商業並に商業資本の機能を一瞥する事としよう。

一 産業の發達——社會の一般的經濟的發達は商業並に商業資本の獨立的發達に逆比例する。その獨自性は止揚されて一の質的變化が起る。斯くして商業は或意味では産業資本の一特殊化した機能として、即ち産業資本の機能分擔者として現はれる。産業資本の循環運動は

$$G(\text{貨幣}) \cdots W(\text{商品}) \xrightarrow{A(\text{勞動力})} P_m(\text{生産手段}) \cdots P(\text{生産資本}) \cdots W'(\text{商品}) \cdots G'(\text{貨幣})$$

流通

生産

流通

即ち資本制生産のもとに於ては、資本は生産過程に入つた時から流通過程を経て再び出發點に歸る迄丸い圓を畫いて不斷の循環運動をなす。商業資本は流通過程内に存在する資本の斯る機能が、換言せば、賣買が、一資本の獨立の機能となつたものであり、生産者の商品資本の貨幣への轉化を使命とする。即ち生産者にとつては、彼の資本が商品資本としての一時的の姿に於て有す

三十二卷) p. 131
 21) W. Sombart, Der moderne Kapitalismus B I. S. 330.
 22) W. Sombart, a. a. O. S. 319.
 23) Marx, Das kapital, I. B. S. 104.

る機能に過ぎざるところの $W-G$ が、商人に對する關係に於ては、 $G-W-G$ として即ち特殊なる種類の資本の機能として現はれたものである。紡績業者が機業者に綿絲を賣る事 ($W-G$) は、機業者より見れば買ふ事 ($G-W$) であり、 $W-G$ は同時に $G-W$ であるが、商人の介在ある場合は、紡績業者より見れば商人への販賣も、 $W-G$ として現はれるが、未だ綿絲は機業者の手に渡つてゐるわけではなく、商人がこれを機業者に賣渡して後始めて完成されることとなる。即ち $W-G-G-W$ は商人の介入により分離して $G-W-G$ の形を取る。然し勿論かかる機能が、『分業の結果多數人の副業たる位置から少數人の專業たり特殊營業たる位置に轉化』されたかと云つて、『機能、それ自體の性質は、斯かる轉化のため變化を受けるものでない』ことは云ふ迄もない。

二 商業資本の機能は斯の如き性質をもつたものであるが、然らば商業並に商業資本の存在は資本主義生産に對し如何なる意義を持つか。商業は $W-G$ (販賣) $G-W$ (購買) の仲介をなし、商品流通を媒介する。然し今若し $W-G-G-W$ に於て、紡績業者の要求と機業者の要求とが、時間的場所的に、或は商品の量的質的に、完全に一致するものなれば、この限りに於ては何等の商業の介在をも必要とせない。直接賣買は兩者の要求を充すに十分である。然し資本主義生産機構のもとに於ては、一定の發展段階に於ては、この要求は十分に一致し得ない。例へば $W-G$ 即ち商品の貨幣化の過程は速ならん事を欲求され、 $G-W$ 即ち貨幣の商品化なる過程は一定の貯藏の存在を要求する。そして第一にこの時間的矛盾を克服すべく機能するのが商業である。まづ $W-G$

1) K. Marx, Das Kapital, II, B. S. 98.

2) 谷口教授、資本主義經濟組織の下に於ける商業の一機能に就て (經濟論叢二十卷六號)

の過程について見るに、若し商業の介在なくんば、生産者は生産物の最後の購買者の手に移る迄生産を中絶せねばならぬ。然らざれば彼は生産の規模をより縮小し、或は多額の準備金を必要とする。産業資本の回轉は遅延される。然し商業の介在があれば、商品を貨幣化した生産者は直ちに第二の生産過程を續ける事が出来る。A. Smith は商業のかかる生産に對する機能を最も強調した一人であるが、彼は農業者に強制的に穀物小賣を行はしめんとせし政策に反對して云ふ。

『此法律は彼の資本を強いて二つの部分に分割せしめた。彼の中の一部分しか耕作に使用するを得なかつた。然るに若も彼にしてその穀物を扱くや否や自由に一穀物商にその全收穫を賣却するを得ば、彼の全資本は即時に、その土地に復歸し來つて土地を更に良く改良し、耕作する爲めに、一層多くの家畜を買ひ、一層多くの使用人を雇ふるに投使されたであらう。然るに彼の穀物を餘儀なく小賣することに依り、彼はその資本の大きな部分を一年中彼の穀倉鳩納屋に放下して置くことを餘儀なくされた。それ故その同一資本を以て左なくば彼の耕作し得べかりし所と同様に良く耕作するを得なかつた』³⁾と。

商業の介在による即時の商品の貨幣化再生産過程への促進生産規模擴大への商業の協力なる事實はかくて夙に Smith の洞察した所である。Marx は云ふ、『商人は多くの生産者のために賣買期間を短縮せしめ『無用な消費を減少せしめ生産期間の遊離を助ける一機械と見做』⁴⁾され得ると。

商業の介在が V-G への時間的要求を充す事は上述の如くにして、生産者(紡績者)は生産物を商人に販賣する事により、直ちに勞働力(Ⅰ)と生産手段(Ⅱ)を買入れ、再生産過程を續け得るのであるが、ここに問題は、かかる生産物(綿糸)を更に生産手段として買入れる資本家(機業者)の側より起る。紡績者の側より見れば、再生産行程を續ける上からも、速に商品_を貨幣化したいのは

3) A. Smith, W. of N., Vol. II P. 32, 33.

4) K. Marx, Das Kapital, II B. S. 98.

必然の要求であるが、これを購買者の側より見れば、生産行程が流暢に進行するためには、寧ろ一定の商品貯藏の存在が要求される。特に擴大生産のためには缺くべからざる要件である。『 $G-W$ 』なる轉形より見れば商品が絶えず市場に存在すること、換言すれば在庫商品が形成されるといふことは再生産業の進行を流暢にし且つ新なる又は追加的の投資を可能ならしむる條件』として現はれるのである。特に生産消費の季節的性質の大なるものに於ては特にこの必要は大であるここに兩生産者の要求の矛盾が起るわけであつて、これが克服の中に商業の一機能が見出されることとなる。即ち商業の介在により直接 $W-G$ ではなく $G-W-G$ なる一の W の中間段階が設けられることとなるが、然る限り、第一生産者は商人に賣付けて再生産を始め、第二生産者は商人にその貯藏を見出す。これはまた消費材の生産部門にも當嵌る所で、資本主義社會の生産する賃労働者俸給生活者等は手から口への生活をなしてゐる關係上、生活資料を一時に生産者より購買するよりも、必要に應じて之を市場に求めるを便宜とする。

かく商業の機能は第一に $W-G$ $G-W$ の間に於ける時間的矛盾の克服に於て見出される。

三 商業の存在は又 $W-G$ $G-W$ に於ける W W 間の量的質的場所的要求の矛盾を克服する。資本主義の發展は企業の大規模化を特徴とする。然しこの大規模化は必ずしも全ての生産過程に同時に同程度に進行するものではない。或ものは最初の段階に於て、或ものは最後の段階に於てそして多くのものは、中間の段階に於て、大規模化する。然る限り生産者は多くの上又は下の生

5) Marx, Das kapital, II B. S. 102. p.

6) 向井鹿松氏著、配給市場組織 p. 218

7) A. Smith, W of N. Vol. I, p. 456. スミスは商業が生産物を分割小賣する機能に指摘し若し一時に多量の購買(例へば牡牛羊丸一頭)をなす必要あらば不便なるのみならず生産への資金を奪ふものである。この利益は商業による附加價格を償つて餘ありと考へた。(Smith, W. of N. VI. p. 241, 242)

産過程又は販賣過程と接觸せねばならぬ。これはただに煩はしきのみならず、多くの流通期間と流通空費が無益に入り込む事となる。然るにここに商業が存在することとなれば、個々の資本家的經營に分散せる職能を集中する事により、各産業資本家をして、適當の量に於て、質に於て、要求を充さしめる。特に資本制生産上の技術的要求需要の統一性に應ずる上より見れば商業の齎すこの質的不均衡の克服即ち品質の統一化も見逃せない所である。尙商品生産はまた『あらゆる方面への商品の場所的變更を必要』⁸⁾ならしめる。若も商業資本が介入して『原生産物又は製造された生産物の孰れかを其の潤澤なる所より缺乏する所に輸送する』に使用せらるるに非ればそれは『生産される一地方の消費に必要な以上には生産され得ない』⁹⁾が『商人の資本は一地の剩餘生産物を他地のそれと交換するものでありかくして兩地の産業を奨勵し兩地の享樂を増大せしむることとなる。』¹⁰⁾

四 商業の價格變動の安定化も注目すべきである。資本主義のこの段階に於ては生産と消費は全然無秩序無統制なるを以て特徴とするが、然る限り生産者は自己の生産物が果してどの程度に社會的に要求に合するかは不明であり、ここに商業の需給調節作用價格安定作用の必要が生れる。¹¹⁾即ち生産者は生産物を商人に賣渡す事により一應その危險を商人に轉嫁すると共に商人は流通過程に於ける危險を背負つて立ち、意識的に見れば、高きに買ひ安きに賣るその行爲(投機的行爲)が、社會的に見れば商品の過不足の均衡化となり、價格の安定化となり、スミスの言を借れば『缺乏

8) 向井鹿松氏著、前掲 p. 203-211

9) R. Hilferding, Das Finanz Kapital, S. 255.

10) A. Smith, W. of N. I. p. 341.

11) Lexis, Allgemeine Volkswirtschaftslehre(田邊譯 p. 120-121)

し又異なる生産部門の取引にも従事せる關係上その回轉はかかる制限をも打破する事となり、かくて商業資本の回轉は、異なる、或は、同一部面、何れにせよ、若干の産業資本によりなされる回轉の總和に等しいこととなる。かくて商業資本が速に回轉すればする程社會總資本のうち商業資本として作用する部分はより小さくて濟み、緩漫に回轉する程それは大きく、商業資本が貨幣資本たる資格を以て商品資本に對して盡す機能は、貨幣一般が、一の與へられたる期間に行はれる何回もの流通に依り、諸商品に對して盡す機能と等しいものとなる。¹⁷⁾

六 商業並に商業資本の機能は以上の如し。生産の發展はその縦横の分裂擴大を齎すと同時に生産と消費の分離を増大する。これに従つて商人の縦的に横的に機能すべき範圍は擴大される。¹⁸⁾資本制生産發展の初期に於ては商人介入の傾向が支配する。と共に一面かかる商業に機能間の分化が生ずる。第一に商業は所謂附隨的活動より分離しその本質的活動たる賣買の仲介のみに固着される。保險・運送・貯藏・金融等の機能は獨立の營業として、商業を補助すると共に、世人一般の種々の目的のため利用さるに至る。商業機能の純化の傾向これである。第二には固有の商業内に分化が起る。²⁰⁾手工業時代に於ては取扱商品は材料の種類(例へば金物、木製品等)により分れしが(生産者本位)、漸次使用目的に従ふ分業(顧客本位)起り、例へば家具商と云へば、金屬性たると木工品たるとを問はず、之を取扱ふ如きはその一であり、萬屋より専門店へ、今日ではそれが止揚されて百貨店の如きの發展を見るに至れるはその二であり、更に商人介入の傾向と共に商業の

に於てこの價格に僅かの利益あらばそこに貨物は引寄せられ事業はしじゆる回復さる』と。¹⁴⁾ Bücher, Entstehung der Volkswirtschaft. S. 143.

¹⁵⁾ Marx, Das kapital, III B, S. 282. ¹⁶⁾ R. Hilferding, a. a. O. S. 255.

¹⁷⁾ K. Marx, a. a. O. S. 233. 河上博士、社會問題研究第六十六冊 p. 21, 22.

¹⁸⁾ 谷口教授、商人排除の傾向(小賣店問題) p. 214)

¹⁹⁾ 谷口教授著、商業組織の特殊研究 p. 23

媒介作用の種、類により卸賣商業小賣商業投機商業の如き分業が起つて來たのはその三である。²¹⁾これ等各種商業の機能は他日の考察に譲るとして、兎に角、商業の機能すべき分野の増大とともに商業機能の間に分化の生じた事は資本主義發展の該段階の特色として見逃す事は出来ない。

(註) W. Sombart は前期資本主義時代の萬屋を “These” とせば専門店はその “Anti-These” であり高度資本主義時代の

百貨店は “Synthese” であるとして百貨店機能の本質を規定してゐるが商業發展の一傾向として興味ある見解である。²²⁾

“Das Warenhaus hat also die Tendenz, sich zum All-Bezugsartikelgeschäft zu entwickeln, und stellt gleichsam die Synthese der bisherigen Detailhandelsgeschäften dar, indem es auf grösster Stufenleiter zum Typus der Gemischtwarenhandlung Zurückkehrt. Diese wäre also die These; die fortschreitende Differenzierung nach den verschiedenen Seiten hin die Anti-These; das Warenhaus die Synthese”

七 商業は價值或は餘剩價值を生産するか。戸田博士の如きは今日『此問題は用語（生産なる語）

の争に過ぎず』²³⁾として排してゐられるが、兎に角、古くより論議せられた所である。商業資本は製造資本と等しく無生産的であり無生産的である商業資本は唯それ自らの價值の存在を繼續させるに止まる何等新價值を生産しないその利潤は斯商業資本の投下に費さる可き費用の一部の償還物に過ぎずとする重農主義者の所論に對しては、商業に於ては勞働が『賣り得可き商品に固着し具體化し實現する』²⁴⁾故を以て生産的となす A. Smith の反駁がある。今その説の當否は別として不生産的である事は必ずしも不必要を意味するものでもなければ資本主義的生産に對するこれが機能の存在を否定する根據ともならない。流通時間の短縮は間接に利潤率の増進を齎し、流通空費の排除は餘剩價值への控除を減少する意味に於て間接とはいへ、²⁵⁾生産に對する貢獻は認めねば

20) 戸田博士、商業經濟論、p. 36, 37.

22) W. Sombart., Das Warenhaus, ein Gebilde des hochkapitalistischen Zeitalters (Probleme des Warenhauses 1928, S. 83.)

23) 戸田博士、前掲 p. I 向井氏著、前掲 p. 55.

24) A. Smith, W. of N. Vol. II, 165.

25) A. Smith, W. of N. Vol. II, 175.

21) 戸田博士、前掲 p. 38.

スミスはこの見解に於ては重商主義的

ならぬ。即ち商業資本の存在は『流通期間を短縮せしめることに貢献する限りに於いて、間接に、産業資本家の生産せしめた餘剰價值を増殖する助けとなり得る。それは市場の擴大を助け、諸資本間の分業を媒介し、以つて、資本がヨリ大きな規模で働くことを得しめる限り、その機能に依つて産業資本の生産率及び蓄積を促進する。それは流通期間を短縮せしめる限り、前貸資本に對する餘剰價值の比例たる利潤率を高める。それはまた貨幣資本として流通部面に閉じ込められる資本部分を小ならしめる限り、直接生産上に充用されるところの資本部分を大ならしめる』²⁶⁾ ウンタマンは云ふ『商人の機能は、不生産的ではあるが、しかも資本主義の下に於ける再生産の過程は斯ような不生産的の機能をも含んでゐるし、また斯ような不生産的の機能をも必要とするものであるから、従つて社會的に必要なものである』²⁷⁾と。レンナーも云ふ如く『商人は寄生的だといつては單純な誤解であり』例令生産的でないとしても『生産を促進する働をなす』ことは見逃せない。²⁸⁾ 尙この段階を特徴づけるかの景氣變動恐慌に對して商業が如何に作用するかも注目すべき問題であるがこれは他日の考察に譲る。

四

資本主義の發展は自由競争の止揚を以て特徴づけられる。資本の有機的構成の高度化と固定資本の増加は、勿論必然的ではないとはいへ、多くの場合利潤率の低下を齎らし且均衡化を阻害するものであり、流通期間の延長に伴ふ販賣競争の激化は益々この傾向を導く事になる。これを克

色榮濃厚(但しスミスの生産的勞働の一面の意義)

26) 河上博士、社會問題研究第六十六冊 P. 23, 24.

27) K. Marx, Das kapital III B, I T. S. 236.

28) ウンタマン、山川均譯、白揚社 P. 303, 304.

29) 河上博士、社會問題研究、第六十六冊 P. 24.

K. Renner, Die Wirtschaft als Gesamtprozess, S. 128.

服すべく企業間の結合が生れる。この間銀行資本の斡旋が有力なる媒介となる事は云ふ迄もない然らばかかる事實の發展は商業機能の上に如何なる影響を持つか。一言にして云へば商業機能の縮小或は除去が支配的となると共に然らざるものにも一の質的變化が齎らされる。

一 我等は先に商業の機能の一が生産者相互に於ける $M-C$ (販賣) $C-M$ (購買) に於ける量的質的、時間的、場所的、不均衡の克服にある事を見た。例へば機業者はその生産物に就いて一々の紡績者に接するよりも、綿絲商人のもとで諸種の需要を必要な量と質に於て充し或は所分するを選ぶ方が便宜である。かくて流通期間流通空費が除ける。然るに今同種の財貨を生産する諸經營の集中が發展したとする。この場合一應はこの集中的な産業經營に對應すべく資本力の大きい商人を必要とする。然し今かかる集中が各段階の生産過程に發展したとする。然る場合は生産の大量化は、商人の仲介を待たずして、生産者相互の取引で、よくその需要を充し得るに至る。即ち $M-C-M$ の要求が量的に均衡を保つに至つたのである。¹⁾ かくて商業の機能する範圍はそれに應じて縮小される縱斷的結合に於ては商業そのものは除去される否その高度化により商品流通自體も除かれる。かく一企業に於ける商品の需要或は供給が大量化すると同時に質的、場所的、時間的、不均衡も生産者相互間に克服し得る條件が生れてき²⁾——量的發展による一の質的變化——、この方面でも商人の機能範圍は壓迫される。曾ては資本主義的經營の散在性を自己に有利に利用し、時にはこれを操縦してきた商人の地位も、かかる資本主義的結合の發生とともに根本的に一掃される事となる。³⁾

1) K. Marx, III B. I T. S. 229.
谷口教授、商人排除の傾向
2) 例へば商品標準化の發展
3) Lexis, 前掲 p. 124.

二 次に消費材の生産部門を見る。商業は消費段階に近附く程、場所的分散により特徴づけられる。これは大経営への一の限界を形成する。然しかかる場所的分散の必然性も大事業の支分店の開設により容易に克服される。生産者の通信販賣出張販賣は中小都市村落までも見逃さない⁴⁾。更にかかる量的分散の不便は最近商業間の集中の傾向と更にこの集中體への統制力の延びるに従ひ容易に克服される。デパートへの小賣商業の集中デパート相互のコンツェルン化は最近の顯著なる一傾向であると共にデパートが金融上銀行と密接の關係に立つ事も見逃してはならぬ。金融資本の媒介はよく工業と商業間の結託を成就する。尤も今日尙消費材に於ける需要の時間的場所的量的分散性は企業大規模化と共に、否之に應じて餘計に中間商人の機能が必要とするもの多く、多くの卸賣商人小賣商人が排除されないのもこれによる。然しこの段階に於て問題であるのは商人の排除か否かの點よりも寧ろ商人並にその營む機能の質如何の問題である。

三 今企業結合が高度化する場合を見る。然る場合は加盟諸企業の商業的獨立はシンデケートにより置き代へられる。この場合普通卸賣商業が先づ除かれ、シンデケートの代理店之に代り、次で小賣商業に及ぶのであるが、消費材生産部門では上述の如く、シンデケートは直接資力薄弱需要僅少なる小賣商人に接するを好まず、その間、中間商人を介在せしめる傾向もある⁵⁾。これは一面シンデケートの監督統制の費用を節約せしむ。かくシンデケートは一面中間商人を介在せしむる傾向があるが、これは他面中間商人間の結合淘汰を刺戟する。更に注目すべきは企業結合の

4) 拙稿、わが國に於ける百貨店出張販賣の發展(經濟論叢昭和八年六月號)
拙稿、百貨店の出張販賣、通信販賣、連鎖店(經營研究、昭和八年十一月號)
5) 谷口教授、商人排除の傾向(小賣店問題 p. 224)

支配下では商業の機能そのものが質的に變化されることこれである。即ち例令代理店化せざるものでもその獨立は擬性的なものとなり、シンデケートの命ずる量・質・地域・價格に於て賣る事を餘儀なくせられる。⁶⁾そしてその利潤は手数料——勞働賃銀に接近せしめられる。商業作用の除去と共にその質的變化はかくして齎される。かくシンデケートは『自分自身の販賣を單純化するために商人の數を減少すること、そしてまた手数料を事實上商人の活動——高度に熟練なものと評價して——に對する勞働賃銀に接近せしめることを専ら利益とする』⁷⁾。

企業結合の高度化に従ひかくて *WIRTSCHAFT* なる流通過程を媒介する商業固有の機能は不要となり、そしてただ大量生産をなす一切の社會秩序のもとに於て、消費の媒介上つねに必要な『生産物の分配なりその保存および貯藏なりの職能』のみが存續されることとなる。

四 企業結合が低位に止まるに過ぎざる場合も、その契約の内容に應じて、商業の作用は制限をうける。價格カルテルなれば商人の價格への作用が、生産カルテルなれば商人の數量的調節作用が、地域カルテルなれば商人の場所的需給の調節作用が、制限される。⁸⁾特にカルテルの作用の支配的な傾向は『商人から價格決定の作用を取上げる』¹⁰⁾ことである。蓋しカルテルの効果を大ならしめる爲には販路の大きさを判斷することが絶対に必要であるが、それは少くも暫定的には價格により支配される所である。尤も一應は價格協定により遂げられるとはいへ、需要供給の關係を放任する時には到底全き効果は望み得ない。ここに供給の統制の必要が生れる。然し商人がそ

6) Robert Liefman, Kartelle und Trust (竹内譯 p. 135以下)
Wilhelm Lexis, 前掲 p. 122.

7) R. Hilferding, a. a. O. S. 269.

8) R. Hilferding, a. a. O. S. 270, 271.

9) 谷口教授、カルテルと商業(小賣店問題 p. 268, 269)

10) R. Hilferding, a. a. O. S. 262. R. Liefman, 前掲 p. 144

の間に介在する限り、その投機的性質を利用して、買占賣惜みを行ふ事は必然であり、價格の變動が商人の手に握られる事となる。¹¹⁾ここに商人より價格決定の作用を取上げる必要が生れ、商業作用の制限商業機能の除去はかかる方面よりも進行する。R. Hilferding は云ふ。

『カルテル化はすでに産業と銀行資本との内面的聯絡を示してゐる。これがためカルテルは通常一層大なる力を有することになるであらう。さうなるとカルテルの法則が商業に對して強制されうるであらう。この法則の内容は要するに商業からその獨白性を奪ひ價格決定の作用を取りあげることたるであらう。だからカルテル化は資本の投下部面としての商業を廢止するであらう。カルテル化は商業作用を制限し、この作用の一部分を除去し、そして残りの部分をカルテル自身の賃銀勞働者代理販賣人の手によつて行ふ。その際從來の商人の一部分はおそらく斯やうな代理販賣人にされる。かくてカルテルは彼等に對し購入販賣の價格をチャント決めその間の差額がこれ『商人』の手數料となるこの手數料の高さはもはや平均利潤の高さによつて決定されるものではないむしろそれはカルテルの決めた報酬である』¹²⁾

かくて『資本主義の最高の花であり最深の根』¹³⁾とも云ふべき投機は不要となりカルテルの安定價格が支配する事となる。

五 カルテル化は必ずしも工業にのみ發展するものではない。商業にもカルテル化は同様に行はれ得る。¹⁴⁾と共にカルテル化の未發達な産業（完成品産業原始産業家内工業等）は商業により支配される多くの部面を残す。然し我等は一應こう云ふ事が出来る。商業は資本力が小さい上資本の有機構成が低い。この事情は商業に於けるカルテル化の發展を困難ならしめる。従つて商業による工業の統制は決して支配的事實ではあり得ないと。

今日商業による工業の統制を最も多く見るは小賣商業の部面であり、特に商品標準化の可能な

11) Lexis, 前掲 p. 121.

12) R. Hilferding, a. a. O. S. 262, 263. R. Liefman, 前掲 p. 142.

13) R. Hilferding, a. a. O. S. 277.

14) Liefman, 前掲 p. 139.

る部面である。¹⁵⁾連鎖店の著しい發展その工業統制の實例はアメリカの小賣商業界が我等に示す所であり、百貨店の自己經營の工場或は獨立工場の專屬化の例は屢々我等自身の見る所である。¹⁶⁾

六、資本主義的大經營は原始産業に及び難く又消費材部門では商人機能の除去も消費者の分散性により制限づけられる事は我等の既に見た所である。然し近時組合的集中形態の發展はこの障害をも除去する。¹⁷⁾農村の販賣組合購買組合都市の消費組合はこの一例であるが、蓋しかかる形態のものに於ては、内部經營或は技術的な方面より見れば成程小規模であつても、外部經營即ち購買及販賣の方面より見れば決して小規模とは云へない。¹⁸⁾ここに直接生産者消費者に接觸して集中的要求と分散的要求を充し得る可能性が生れる。そしてその發展に應じて商人は除去される。尙近時注目すべきは——それが金融資本發展の必然的過程であるか否かの問題は暫くおき——國家的統制の手の流通分野への進出である。その動機が國民主義運動のためにせよ、資本主義止揚のためにせよ、或は N. Bucharin の云ふ「統制されたる資本主義」¹⁹⁾のためにせよ國家自身の商品賣買の獨占或は統制は獨立商人の機能を奪ふものである。そして一部の論者はこれをも金融資本下の資本主義的集中の一形態とする。以上獨占資本主義支配のもとに於ける商業の機能について見た。そこに我等は商業機能の相對的絕對的縮小の事實に直面する。今や『商人はその本來の性質のものとしてすなはち缺くべからざる生産に對し無くてすむ補助手段として現はれる。いはば商業による分配てふ資本主義的必然性に對し生産てふ自然的必然性の優越性の前に克服され』²⁰⁾たのであり、商人は『自由を奪はれ』²¹⁾あこがれの心を以て昔のうまい商賣の夢を物語』らざるを得ざる

15) 磯部喜一氏、商業と工業の交渉(經濟論叢第三十一卷六號)

16) J. Hirsch, Die Bedeutung des Warenhauses in der Volkswirtschaft (Problem des Warenhauses S. 59 以下) Felix Pirner, Das Warenhaus, sein Verhältniss zu Grosshandel und Industrie (Probleme des Warenhauses S. 89 以下)

拙稿、百貨店と工業並に卸賣業の關係(經營經濟研究第十八冊)

17) Liefman, 前掲 p. 142

に至つたのである。

五

以上私は一應商業の機能を資本制生産の發展に即して眺めて來た。特に私が關心を持つたのは資本制生産の發展は商業の機能に如何なる影響を及ぼしたかの點とともに、資本制生産の發生發展としてその止揚の過程に對して商業が如何なる作用を及ぼしたかの點であつた。我等は商業は資本制生産に規定されながらも又商業の側より生産に多くの作用を及ぼして來た事を知つた。私はこう考へる。たとへ交換(流通)は究極に於ては生産によつて規定されるものとしても、而もそれは生産が交換によつて反作用を及ぼさる事を否定するものであつてはならないと。『生産はまた一面的形態においては他の諸契機により規定されるのであつて例へば市場が擴大すると即ち交換の範圍が廣がると生産はその範圍を擴大し且つ一層深く分割される』²⁾のである。勿論人間が生産し消費し交換する諸經濟形態は、過渡的なものであり歴史的に條件づけられたものであつてその交互作用に於ても強弱あるはまぬがれない。あるときは生産の規定性が強く表はれ、あるときは消費が、交換が、分配が、支配的となる。斯く見るとき商品生産の社會に於ては交換が最も重要な契機であるとは云へないだらうか。資本主義的再生産は絶対交換を條件とし『利潤は交換によつて實現され、勞働の調達は交換によつて行はれ』³⁾——假に究極に於ては生産により決定されるとしても——交換は分配及び消費を支配し又生産を左右するを見る。生産を以て歴史の推進力と見る論者(例へば F. Engels)が往々『生産關係および交易關係』(Produktions und Verkehrsverhältnisse)『生産お

18) 谷口教授、商品配給組織の發展傾向(小賣店問題 P. 242, 243)

19) N. Bacharin, Unter dem Banner I. 2. S. 251.

友岡久雄譯、帝國主義と資本蓄積 p. 169

20) R. Hilferding, a. a. O. S. 275, 276. 21) R. Hilferding, a. a. O. S. 276.

1) Marx, Kritik, S. XX-XXXIV. Marx, Engels, Die deutsche Ideologie (Marx-Engels Archiv Bd. I.) S. 259, 260. 2) Marx, Kritik. XXXIV.

よび生産につづいては生産物の交換⁵⁾ ("Austausch der Produkte")なる語を用ひ、生産を交換に併稱せるはかかる商品生産社會の特質を強調せるものと見られ得ないだらうか。^註

問題はもとへ歸る。然らば商業と資本制生産との交互作用は如何にして行はれたか。今一度この問題を顧りみよう。勿論一應上述の如く生産に規定されながら交換(流通)はその埒内に於て生産に作用するとせば、これを分離して(1)商業の生産への作用と(2)生産の商業への作用として論述するは方法論的には非難なしとせない。然し我等の學問的要求は一應かかる抽象の許容を求める。

(一)商業の生産への作用 第一段階に於ける(資本制生産發生前)商業の生産への作用は資本制生産の發生への準備工作をなし、その前提を作つた點により特徴づけられる。商業資本は商品生産及び資本の蓄積の發展に貢献した。舊生産社會の支配權を把握しつつこれを分解せしめた。⁶⁾かくて『市場は益々増大し、需要は益々高まつた。工場的手工業も亦最早や間に合はなくなつた。そこで蒸氣と機械とが工業上の生産を革命⁷⁾すべく運命づけたのである。これは交換の生産への作用の一例であり、かくて『市場の擴張』は『生産範圍を擴大⁸⁾』し、これを根本的に變革する一原因を築いた第二段階に於ては、即ち資本制生産の發展すると共に、商業は一の質的變化を受けた。從來の生産への獨自性或は支配性は失はれ産業資本の機能の一部を分擔すべく機能するに至る。然かし尙かる埒内に於ては、商業の機能自體は嚴存し或は分散的な各生産段階の要求を調節し價格を左右し、或は空費を除去して生産資本を増大し擴大再生産を容易ならしめ、回轉を促進して間接に利潤率の増進を助け、市場を擴大して生産力の發展生産方法の改善に資した。時には生産の分散性を利用しこれを統制し支配する事さへもあつた。⁹⁾然るに第三段階に入り自由競争が止揚され企

3) 櫛田學士、全集第一卷 p. 108

4) Fr. Engels, Anti-Dühring S. 12.

5) Fr. Engels, Anti-Dühring S. 35.

A. Smith, W. of N. Vol. I, p. 383, 386, Smith は社會推移の力として「外國貿易及製造業」なる言を屢々用ひてゐるがこれは Engels の「生産及交換」と對稱して極めて興味あるところなると共に Smith の思想の歴史的社會的意義をよく表はしてゐると思ふ。

6) A. Smith, W. of N. p. 386.

業結合が支配するや生産過程に於ける商業の機能は極度に縮小され或は意識的に排除されるに至つた¹⁰⁾商業はシンデケートの代理店により置き代へられ或はその獨立は擬性的なものとなり、商業よりの工業への作用は僅に原始産業未カルテル化産業消費材生産部門等に名残を止めるに至る。かくて一般に商業の生産への作用は生産の發展に逆比例して縮小され絶對的にも相對的にも減退せるを見る。生産の商業への力の強化は商業よりの反作用の微化を意味する。

(二) 生産の商業への作用 第一段階に於ては生産が商業により支配せらるる時代である。往年の仲介商業の獨立的活動・商業による産業の支配に、この時代は特徴づけられる。然し『フエニシヤ人カルタゴ人等の商業民族は古代世界において純粹の商業民族として現はれたのであるが、かかる純粹性(抽象的規定性)は正に農業民族が優勢であつたといふ事自體によつて與へられてゐた¹¹⁾』のであり、究極に於ては生産の發展により規定されたとも見られ得るのであつて、商業が表面的に支配的に現はれたのは、資本が未だ生産を把握しなかつたために外ならぬ。『商業資本の發展は資本制生産の發展に逆比例¹²⁾』するのである。これは所謂商業の分解作用にも見る事が出来る。商業資本は舊生産方法を分解した¹³⁾。然し如何なる程度までこれを分解し得るか又その後如何なる生産方法が生れるかは舊生産方法自體の性質に關するもので商業資本の關する所ではない。ここにも見方によれば商業作用の限界とその被規定的性質が見られる。第二段階に於ては既に商業は孤立化し或は生産に従屬し支配される¹⁴⁾。商業は産業資本の機能を分擔するに過ぎぬ。蓋しこの時代生産力の發展は著しく、生産分野は擴大分割され、生産消費の分離は増進し、これは商業の介在範圍を擴大した。とともに必然商業間に機能の分化が起つた¹⁵⁾。第三段階に於ては商業間の結合

7) 河上博士、唯物史觀研究 p. III.
8) Marx, Kritik, XXXIV.
9) R. Hilferding, a. a. O. S. 262.
10) 谷口教授、商人排除の傾向
11) K. Marx, Kritik, S. XLV.
12) K. Marx, Das kapital, III. B. I. T. S. 279.

發生の結果商業そのものが排除され或は極めて縮小され、例へ存在するものも從來の獨自性は擬性的のものとなり、シンヂケートの命づる條件に服従するの外なきに至つた。即ち商業による分配てふ資本主義的必然性に對し生産てふ自然的必然性の優越がそこに現はれるのである、¹⁶⁾生産の商業への作用は資本制生産の發展に比例し、擴大され、強化されそれとともに支配對象そのものも失ふに至る。かくて交換を前提とし交換に出發した商業の機能は資本制生産の發展と共にその必然に促されて種々の形態を採つて表はれたが生産の發展が一定の段階に達するや、再び多くの機能は生産の中に包含され其所には單純なる交換のみが残されるに至るのである、我等は知る、究極の規定法が何れにあるにせよ商業と資本制生産とは相寄り相助けて發展し來たものであつて、或時は商業が生産を規定し或時は生産が商業を規定して來た。然し從來多くの人々に考へられてゐた様に商業を以て一の寄生的存在となすが如きは資本制生産發展上の必然的要求を見逃した見解であり史的發展的考察を閑却したものであると。

(註) この場合 Engels の "Verkehr" を「交換」或は「交易」と見ず「交通」と解する見解がある。そして交通は「有用の効果を生産する産業」であるとし、生産の中に包含せらるべきであり、「生産及交通」と云ふは寧ろ生産より交通を除外せない意味なりと云ふ論者がある(河上博士、唯物史觀研究 p. 55)。然し私はこの解釋を採らない。「生産及交換」は經濟を意味するものであり、社會の領域に於ける經濟の規定性を明かにせるものなりとの見解もある(大森學士、唯物史觀 p. 22)。然らば何故に分配消費を併稱せざりしやが問題でなからうか。思ふに生産と雖も社會的歴史的形態であり歴史的に見て各契機¹³⁾の交互作用には強弱あり、柳田大森兩學士も或一面では肯定せる如く、商品生産社會に於ては交換が一の重要な契機として表はれて來た事は否定出來ない。私は寧ろ Engels が生産と交換を併稱したのはかゝる資本主義社會の特質を強調せるものではないかと思ふ。

13) A. Smith, W. of N. p. 389.

ボグダノフ、前掲 199.

14) R. Hilferding, a. a. O. S. 255, 256.

15) 戸田博士、前掲、p. 34-38

16) R. Hilferding, a. a. O. S. 275, 276.